

阿蘇花野再生プロジェクト

～絶滅危惧種ハナシノブやツクシマツモトが咲く花野の再生をめざして～

特定非営利活動法人 阿蘇花野協会

代表 潮谷 愛一

熊本県

はじめに

阿蘇の草原には、ハナシノブやツクシマツモト、ツクシトラノオ、ツクシクガイソウ、ケルリソウ、アソノコギリソウ、アソタカラコウなど、国内では阿蘇だけに自生する貴重な植物が数多く生育している。こうした阿蘇の野の花の多くは、氷河時代に中国大陸や朝鮮半島を經由して日本に渡ってきたものと言われている。阿蘇の野の花は直接に口を開いて自らの歴史を語るわけではないが、阿蘇に存在することによってアジア大陸と九州とが陸続きであったことを語る「歴史の生き証人」として阿蘇の地で生き続けている。

阿蘇の野の花は、採草や野焼きなどの人々の営みと自然の力が釣り合った形で維持されてきた半自然の草原が主な生育地となっている。この草原は、昭和40年代頃まで農業の基盤として不可欠のものであり、農村の暮らしと深く結びついて長年にわたって維持されてきた。しかし、農業の近代化によって機械化や化学肥料の利用が進んだことや、畜産業の低迷によってその存在価値が減少し、草原の存在そのものが風前の灯火の状態になっている。草原が失われることで、そこに生育してきた阿蘇の野の花は生きるための場所を失い絶滅の危機に追い込まれている。阿蘇の地で何万年と生き続けてきた多くの野の花が、今まさに姿を消そうとしている。

阿蘇花野協会は、人と自然とが共生することによって育まれてきた阿蘇の野の花が豊かに咲く草原(花野)の保全・再生を進めている。そして、長い歴史の中で育まれた阿蘇地域に固有の動植物や草原生態系などの生物多様性を、持続可能な方法で適切に保全して、阿蘇に生育する種の絶滅の防止・回復を図り、阿蘇の野の花を未来に引き継いでいくことを目的として活動している。

1 活動場所の現状

阿蘇の草原は、農業の高齢化や過疎化、畜産業の衰退によって放棄されたり、植林されたりする場所が増えている。特に、阿蘇花野協会が活動を行っている阿蘇郡高森町野尻周辺の草原は、個人所有の草原が多く、牛肉自由化の影響などもあり、この10年間で草原面積は半減している。このままのペースで進むと、10年後には草原が消滅し、そこに生育・生息していた生き物たちは絶滅してしまうことになりかねない。現在の活動場所の周辺には、国や県の保護区はあるものの、個人所有であったり、環境省の事業対象外(国立公園地域ではない)であったりして、行政による体系的な保全は望めず、また農業の活性化も望めない状況である。この地域で放棄地を含め、ある程度まとまった草原があるのはこの活動場所周辺だけで、早急にナショナル・トラスト地として取得し、放棄地や荒れた植林地を元の草原に再生することが緊急の課題となっていた。

2 活動場所の概要

阿蘇花野協会では、平成17年4月に熊本県阿蘇郡高森町野尻の原野約2.5 haを取得した。この場所は、10年ほど前まで草刈りや野焼きが行われ多様な阿蘇の野の花が生育していたが、地元農家の高齢化などにより管理されずに放棄されたため、灌木が生い茂り藪となっていた場所である。

ここには、環境省の「種の保存法」により特定国内希少野生動植物種に指定されているハナシノブをはじめ、国内では阿蘇だけに自生するツクシマツモトやツクシトラノオ、ツクシクガイソウ、ケルリソウ、アソタカラコウ、アソノコギリソウなど20種に及ぶ絶滅危惧植物が自生していて希少種のホットスポットとなっていた。これらの植物は大陸系遺存植物と呼ばれ、氷河時代に中国大陸から南下してきたと考えられていて、学術的に非常に価値のあるものである。特にヒメユリは、ここだけで1000本以上が自生していた場所で、国内でも有数の自生地であると考えられる。また、植物だけでなくヒメシロチョウやゴマシジミなど国内他地域では絶滅寸前の草原性の蝶たちも多数生息していた場所である。

3 活動内容

長年放棄され、藪となってしまった原野を元に戻し、野の花が咲き乱れる「花野」として再生するためには、昭和40年代まで行われていた野焼きや草刈り(刈り干し切りや朝草刈り)などの草原管理手法を復活させることが最も重要なことである。そのため、地元農家の人たちの指導を仰ぎながら、防火線づくり、野焼き、草刈り、草集めといった作業を、会員のボランティアを募って行っている。また、再生した草原のようすや、植物を観察するために阿蘇野の花観察会も年間3回実施している。(表1)

(1) 防火線づくり

放棄された藪となった原野を草原に戻すには、まず、枯葉やそれまでに堆積した植物の枯死体(リター)を除去する必要があるが、刈り取りによって行う方法は大変な労力と時間を要する。そこで、阿蘇で昔から行われてきた「野焼き」という方法で堆積物を燃やしてしまうことにした。しかし、原野は植林地に囲まれているため、野焼きを行うためには植林地との間に防火線を設ける必要がある。幅20mほどの防火線を、地元農家の指導を受けながらボランティアの手によって作った。

(2) 野焼き(P.120・121・127)

放棄された場所は、灌木や蔓植物などが入り込んで人が通れないような状況になっている。ここを草原として再生するには、野焼きの作業をする必要があるが、火を扱うためたいへん危険な作業である。このため、野焼きに慣れた地元の長老に指揮を執ってもらい、風の流れや地形等に詳しい地元農家の人をサブリーダーとし、その指示を仰ぎながら野焼きを行った。さらに、危険の多い作業なのでボランティアの人たちに野焼き保険をかけ、さらに万一の場合の延焼にそなえて、国営森林保険をかけた。その他、消火用の火消し棒やジェットシューターなど、消火のための道具も十分にそろえて、野焼きを実施した。

(3) 草刈り・草集め(P.125・126)

ハナシノブやツクシマツモトといった阿蘇に特有の野の花は、秋に草の刈り取りを行う「採草地」に生育している。野焼きだけを繰り返していると、ススキだけが繁茂する「茅野」となり、野の花にとっては良好な生育環境にならないため、10月中旬に、草刈り(刈り干し切り)および草集めの作業を実施し

た。

草刈りは、地元の作業になれた農家の方に指導してもらい、刈り払い機によりボランティア20名でおよそ1haの刈り取りを行った。

草集めも、地元の農家の方に指導をお願いしてボランティア18名で実施した。草刈りから2週間たって完全に乾いてしまった草を、手作業で1カ所に集め、集まった草をコンパクトベラーという大型機械で約10kg位の圧縮した塊(コンパクト)にした。急斜面での危険でたいへんきつい作業であり、地元農家がこうした作業を放棄していく理由がよくわかった。

なお、このコンパクトは熊本県内のお茶農園の方が、お茶畑の堆肥用として引き取ってくださったため、草の有効利用が図られた。

(4) 阿蘇野の花観察会及びパトロール(P. 122~124)

防火線づくりや野焼き、草刈り・草集めによって「花野」が再生することを学ぶとともに、草原の動植物に親しむため「阿蘇野の花観察会」を4月、6月、8月の3回実施した。希少種が対象であるため自生情報の管理には十分配慮する必要があり、対象を会員限定としている。ハナシノブやツクシマツモト、ツクシトラノオ、ツクシクガイソウ、ヤツシロソウなどこの地域でしか見られない植物が復活したことがたいへんうれしかった。また、盗掘防止パトロールも行ったが盗掘跡は見受けられなかった。

(5) 会員募集等

広い面積の草原を保全するにはたくさんの人手と資金が必要となってくる。広報活動を行って会員を増やすため、ホームページ(asohanano.com)を立ち上げたり、会員向けの広報誌「花野たより」を発行して情報発信を行っている。

4 活動の成果

(1) 「花野」を再生することで、絶滅の危機に瀕しているハナシノブやケルリソウ、ツクシマツモトなど草原性の動植物の種の回復を図ることができた。

(表2)

(2) 放棄地での防火線づくりや、野焼き、草刈り・草集めの繰り返しなど、昔ながらの草原利用のシステムを復活することで、近年利用されていなかった

た草を、牛馬の飼料や堆肥などとして有効利用を図ることができ、自然生態系に調和し環境にやさしい環境保全型農業に資することができた。また、その活動を通して地域の方々に、草原利用の気運を高めることができた。

(3)「花野」を再生し、その情報を発信することで、広く阿蘇の草原のすばらしさや阿蘇の野の花の大切さの意義を啓発することができた。

5 おわりに

阿蘇花野再生プロジェクトを立ち上げて、今年で3年目。先人が残した「野焼き」や「朝草刈り」「刈り干し切り」といった草原管理の手法を丁寧に再現していくことで、「花野」が蘇ることに手応えを感じている。管理する面積を少しずつ増やししながら、今後も「汗を流し、擦り傷をつくり、土にまみれて」行動することをモットーに取り組んで行きたい。

最後になりましたが、阿蘇花野協会は平成17年2月にNPOとして認可されたばかりで、運営体制の脆弱な中、平成17年度の本活動にタカラハーモニストファンドより助成をいただいたことは、大きな励みとなりました。ここに記して厚くお礼申し上げます。

表1 月別活動内容 (H17.2.1~H18.5.31)

NPO 法人 阿蘇花野協会

活動期日	活動内容	場所	参加者数
2月 23日(水) 28日(月)	熊本県より「NPO法人阿蘇花野協会」認証 Takara ハーモニストファンド助成金応募	熊本市 熊本市	7 7 人
3月 5日(日) 19日(月)	阿蘇花野トラスト 防火線づくり 阿蘇花野トラスト 野焼き	野尻 野尻	20 31 人
4月 16日(日) 24日(日)	第1回阿蘇花野協会理事会、総会、懇親会 第1回阿蘇野の花観察会〔野尻：キヌレ、フクジュソウ等〕 阿蘇野の花パトロール〔～10月〕 環境省草原再生実証試験調査〔～11月：波野、一の宮〕	熊本市 野尻 野尻 波野他	20 20 5 3 人
5月 21日(土)	阿蘇花野協会パンフレット作成	熊本市	7 人
6月 19日(日) 26日(日)	第2回阿蘇野の花観察会〔野尻：ハナシノブ、ツクシマツモト等〕 阿蘇花野たより No.1 発行	野尻 熊本市	20 7 人
7月 9日(日) 10日(月)	臨時阿蘇野の花観察会〔野尻、ヒメユリ、ハナショウブ等〕 阿蘇花野協会HP作成	野尻 熊本市	8 7 人
8月 3日(水) 6日(土)	(社)日本ナショナル・トラスト協会助成金応募(800万) 第3回阿蘇野の花観察会〔野尻：ヤツシロソウ、ツクシマツモト等〕	熊本市 野尻	4 7 人
9月 23日(金)	阿蘇花野トラスト 草刈り・草集め打ち合わせ	野尻	7 人
10月 2日(日) 9日(日) 9日(日) 20日(木) 23日(日)	熊本県ツクシマツモト保護区草刈り 阿蘇花野トラスト 草刈り 草刈り反省会・懇親会 日本ナショナル・トラスト協会現地視察(阿蘇花野トラスト) 阿蘇花野トラスト 草集め	波野 野尻 熊本市 野尻 野尻	3 23 19 2 19 人
11月 13日(日)	熊本県ツクシマツモト保護区伐採	波野	6 人
12月 2日(金) 8日(木) 18日(日)	阿蘇草原再生協議会発足会 熊本県保護区ツクシマツモト保全管理事業調査報告 阿蘇花野協会忘年会 阿蘇花野たより NO.2 NO.3 発行	阿蘇市 波野 熊本市 熊本	2 5 20 7 人
1月 18日(日)	理事会・新年会打ち合わせ	熊本市	7 人
2月 19日(日) 25日(土) 26日(日) 28日(火)	阿蘇花野協会理事会、新年会 阿蘇花野たより NO.4 発行 阿蘇花野トラスト防火線づくり、野焼き打ち合わせ 環境省草原再生実証試験植生調査業務報告	熊本市 熊本市 野尻 阿蘇市	13 5 2 3 人
3月 5日(日) 19日(日) 31日(金)	阿蘇花野トラスト 防火線づくり 阿蘇花野トラスト 野焼き 日本ナショナル・トラスト協会助成金授与発表	2 30 7	人
4月 9日(日) 29日(土)	阿蘇花野トラスト 野焼き後の灌木除去作業 第4回阿蘇野の花観察会、再生地調査(祝日) 阿蘇野の花パトロール〔トラスト地：4月～11月〕 日本ナショナル・トラスト協会助成金「阿蘇花野トラスト」土地取得	10 20 5 7	人
5月 14日(日) 19日(金)	第2回阿蘇花野協会理事会、総会 花野たより No.5 発行	20 7	人

表2 阿蘇花野再生プロジェクトで、確認した絶滅危惧動植物一覧(H17.2~H18.5)

※ ここに掲げた種は、昭和54年以降に阿蘇花野再生プロジェクトの活動場所で確認されていた種である。

※ カテゴリーは環境省レッドデータブック(2000)による。

※ 確認種に○がついている種は、平成17年度以降確認できた種である。

植物

NO	確認種	和名	科名	カテゴリー	備考
1	○	ハナシノブ	ハナシノブ科	絶滅危惧 I A類 (CR)	国内で阿蘇のみ
2	○	ケルリソウ	ムラサキ科		国内で阿蘇のみ
3	○	ツクシトラノオ(ヒロハトラノオ)	ゴマノハグサ科	絶滅危惧 I B類 (En)	国内で阿蘇のみ
4	○	ヤツシロソウ	キキョウ科		国内で阿蘇久住のみ
5	○	ヒメユリ	ユリ科		
6	○	ツクシマツモト(マツモトセンノウ)	ナデシコ科		国内で阿蘇のみ
7	○	ツクシクガイソウ	ゴマノハグサ科		国内で阿蘇久住のみ
8		オキナグサ	キンボウゲ科		
9	○	ノカラマツ	キンボウゲ科	絶滅危惧 II 類 (VU)	
10	○	キスミレ	スミレ科		
11	○	サクラソウ	サクラソウ科		
12	○	ムラサキセンブリ	リンドウ科		
13	○	シオン	キク科		
14	○	ミチノクフクジュソウ	キンボウゲ科		
15		イヌハギ	マメ科		
16	○	スズサイコ	ガガイモ科		
17		キセワタ	シソ科		
18	○	アソノコギリソウ	キク科		国内で阿蘇久住のみ
19	○	ホソバオグルマ	キク科		
20	○	アソタカラコウ	キク科		国内で阿蘇久住のみ
21	○	ハナカズラ	キンボウゲ科		

動物

NO		和名	科名	カテゴリー	備考
1	○	ヒメシロチョウ	シロチョウ科	絶滅危惧 II 類 (VU)	
2	○	ゴマシジミ	シジミチョウ科		



ハナシノブ(絶滅危惧 I A類)



ツクシマツモト(絶滅危惧 I B類)

平成16～18年度 阿蘇花野再生プロジェクト 活動の様子

1 野焼き（平成17年3月19日）



火消し棒をもっていざ準備。



いよいよ点火！！



炎が燃え上がる。



灌木も焼き尽くされる。



ジェットシューターで消火準備



黒々と焼き尽くされる



野焼き前の様子（平成17年3月18日）



※ 阿蘇花野協会所有地2.5haと隣接する放牧地、採草地、放棄地あわせて、6.0haの野焼きを行った。事故もなく無事に終了した。

<参加者の感想：熊大薬学部4年 瀬戸さん>

はじめて野焼きに参加しましたが、炎のすごさに圧倒されました。火の勢いが強くてとても怖かっただけで、春にいい花が咲くのを楽しみにしています。

2 第1回阿蘇野の花観察会（平成17年4月24日）



いざ、観察会に出発



野焼き跡にキスミレやフクジュソウが芽生える。

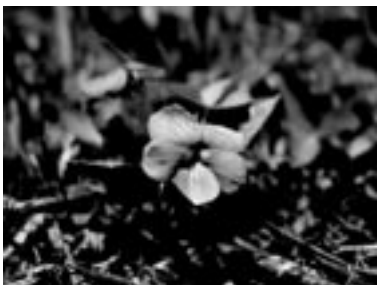
※復活した花と蝶



ミチノクフクジュソウ



サクラソウ



サクラスミレ



絶滅危惧種ヒメシロチョウ

※6/19、7/9にも野の花観察会を実施。

3 花野の再生のようす（平成17年7月12日）



- ・昨年までほとんど目立たなかったユウスゲが見事に復活した。地下茎で生き伸びて、この日を待ち望んでいたのでしょうか？
- ・ユウスゲのほかにも、ヒメユリ、シシウド、ハナウドなどもたくさん咲いていて、昭和30年代の草原のようにたくさんの花が咲き誇る「花野」が見事に復活しました。



※ヒメユリも100本以上を数えることができた。国内では草原がほとんど消滅している状況の中、環境省RDBではメッシュ（5km×5km）あたり100本以上の自生地はない。阿蘇花野のトラストは、日本で最大の自生地ではないかと思われる。

4 第3回阿蘇野の花観察会（平成17年8月6日）



オミナエシを写す



ヤツシロソウがあったぞー



ヤツシロソウ
(絶滅危惧 I B 類)



ツクシトラノオ
(絶滅危惧 I B 類)

<参加者の感想：熊大教育学部4年 北野さん>

はじめて幻の花と言われるハナシノブやツクシマツモトを見ることができて感激しました。野焼きの効果はすごいと改めて感じさせられました。

5 草刈りのようす（平成17年10月9日）



・春から夏にかけて成長したススキやヤマハギ、オミナエシなどたくさんの野の花が咲く草原の草刈り。急な斜面でたいへんな重労働。お互い怪我をしないよう、させないよう少しずつ離れて草を刈っていく。

・秋晴れの空のもと、みんなもくもくと草刈りに精を出す。



6 草集め（平成17年10月23日）



大鎌を使って草集め。



ロープで草を結わえて、運びます。



- ・見た目は緩やかそうに見える草原ですが、とても急な斜面。トラクターもこれ以上のぼれません。えっちらおっちら上ったり下ったり。「きちいー」の声があちこちから聞こえます。

- ・集めた草は集草機でコンパクトと呼ばれる直方体の草の固まりに変身。ガッチャンガッチャンあつという間に、できあがり。

・阿蘇花野再生プロジェクトでは、この付近一帯を花野に再生しています。



7 野焼き（平成18年3月19日）



炎が燃え上がる



延焼しないよう見守る



無事に野焼きが終了してほっと一息。今年もチームワークばっちりでした。

